
バトルなんて興味ないから

夏宮らん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バトルなんて興味ないから

【Nコード】

N0805Z

【作者名】

夏宮らん

【あらすじ】

目が覚めたら、そこは「ポケットモンスター」の世界でした。寝ることが大好きで、面倒ごとが大嫌いな主人公ノアは一人で静かに過ごしていたのに、持ち前の才能で厄介事が次々と降りかかってくる。「元の世界に戻る為」でもなく「バトルをたくさんやる為」でもない。彼女の目的はただ一つ、色々な場所でいっぱい寝ること。そんな超変わり者なノアがのんびんだり旅をするお話。「漫画」「ゲーム」「アニメ」三つの世界が混ざった「平行世界」での冒険が今始まる。

1 VS ミュウ

カントー地方、マサラタウン。

ゲームで言うと右下にある白い建物　オーキド研究所には『オーキド博士』と呼ばれる人物が暮らしている。本名はオーキド・ユキナリ。タマムシ大学携帯獣学部名誉教授も務めており、ポケモン研究の第一人者として活躍しているオーキドをこの世界では尊敬する者も多い。ゲームでは主人公に最初のポケモンを与えてくれる等と非常に親しみやすい人柄の持ち主である為、数多くの人々から慕われている。

そんなオーキド博士が住む『オーキド研究所』の前には一人の少女が佇んでいた。

「ふわあああ……」

眠そうな顔で目を擦り、間抜けな声を出しながら大きな欠伸をする少女。彼女はマサラタウンの住人ではない。突き詰めて言えばこの世界の住人ですらない。今朝、気が付いたら大量のモンスターボールに囲まれて『オーキド研究所』の近くにある大木に寄りかかって座っていたのだ。

最初にこの世界を正しく認識した時、少女は軽くパニックを起こした　と言っても今から三十分も前の話じゃないが。何せ前の世

界にいた時と比べて遥かに身体能力が上回っていたし、ポケモン達の傷を癒して心を通わせることができたのだ。これで驚かずに何で驚けと言うのか。

結局、茫然自失としていた少女　ノアが落ち着いてきたのは、今から十五分程前の話だった。

冷静になってみたら、ノアは背中にリュックを背負っていることに気付いた。どうせ自分の物なのだろうと割り切って中を覗いてみると、彼女がよく愛読していた漫画『ポケットモンスターSPEC IAL』で主人公の一人であるクリスタル　略してクリスが使っていた、かの有名な『携帯転送用コード』がピンクのポケギアとセツトで入っていたのだ。

つい先程まで彼女を困っていた大量のモンスターボール。どうやらあの大量のモンスターボールに入っていたポケモン達は、みんな前の世界にいた時にゲームで捕まえて、ノアが育てたポケモン達らしかつた。だからと言ってこんな大量のモンスターボールを持ち運びするわけにもいかない。誰だかは分からないけど、自分をこの世界に連れてきた誰かが転送用コードとポケギアを用意してくれたのは明白だった。

転送先は全く検討もつかないが、ありがたくその好意に甘えさせてもらおうではないか。

・カントー・ジョウト・ホウエン・シンオウ・イッシュに生息する

全てのポケモンを所持している

- ・努力値・個体値・性格・個性も全部パーフェクト
- ・レベルアップ技・タマゴ技・わざマシン、ひでんマシンで覚える技・教え技の全てを覚えている
- ・ がいる種族は全部 で統一している
- ・ アンノーンはN型

少しずつ『廃人』への道が近づいてきていることに、本人は全く気付いていないのだが。

ノアは基本的におっとりとしたマイペースな性格だが、一方で厄介事なんてお断りな面倒臭がり屋な一面も兼ね備えている。平和主義なので、のんびんだらりと日々を過ごせればそれで良いと思っっているのだ。とにかく寝るのが大好きな彼女はどこでだって眠れる特技を持つ。無口で冷静沈着なノアは世間の人々からよく何を考えているのか分からないと言われることが多い。本人はそれを気にしたこともないが。

「ふわあああ……」

本日二度目となる欠伸が出たところで、ゆっくりと『オーキド研究所』の方に向いていた体の向きを変え、西の方角へと歩き始めたノア。ポケモンの世界に来たからにはポケモンバトル ではなく緑豊かな自然に包まれて思う存分に寝ようと変わったことを考えて

いる彼女は、至極当然ながら『オーキド研究所』には全くもって用はないのだ。目立つことが大嫌いな彼女にとってバトルはありえない存在。

そもそもノアはこう見えて頭の回転がとてつもなく速い。習ったことをぐんぐん吸収して気が付けば誰よりも上達している。言わば飲み込みが早いのだ。ポケモンバトルに関してもその才能は発揮されるはず、ましてやあれだけの最強とも言える多数のポケモンを所持しているというのに、バトルをやらなんやなんて何とももったいない話である。

十

十

カントー地方南西部の半島。その南端に位置する小さな町、マサラタウンは『南国の町』とも呼ばれる。ゲームでのスタート地点に属するこの町は、ポケモンセンターやフレンドリイショップなどの設備が存在しない。『何色にも染まっていない、汚れなき色』という理由から『白』をシンボルカラーとしており、『始まりの町』を意味する。

様々な民家が立ち並ぶ町の中心から外れると『オーキド研究所』が少しずつ見えてくる。さらに西の方へ向かえば広い草原や深い森なども姿を現すが、何しろ町の外れにあるので人影は全く見当たらない。その『広い草原』で寝転んでいるノアは『オーキド研究所』から通ずる道を一人でのんびりと歩いてきた。

季節は春に近いのか、暖かい空気が再び彼女に睡魔を運んできて夢の世界へ誘おうとしている。優しい陽だまりの下で穏やかな時間を過ごそうと考えていたノアにとっては、人通りの少ないこの草原は絶好の昼寝スポットなのだ。

「くそう、またはじかれた」

「よおし、今度は私の番よ！」

「おまえに捕まえられんのか？」

「バカにしないでよ。このモンスターは、私が捕まえて育てるんだから！えーい！」

少しづつノアの瞼が閉じかかっていたその時、ふと風の流れに乗って小さな可愛らしい声が耳に届いてきた。ゆっくりと声がある方に頭を傾けてみると、モンスターボールを『二ドリーノ』に向かって投げる少女の姿。他にも十歳ぐらいの少年少女達がノアから遠く離れたところに集まっている。チラツとそちらの方を確認した後、ノアはすぐにまた顔を澄み渡る空の方へと向けた。そのまま目を瞑って今度こそ寝る準備に入った。はずなのだが、少しばかり頭に引っかかるものを感じていた。

普段のノアなら余程のことを話していない限り、他人の話には全く興味を示さない。しかし今回は自分の中で訴えかけてる違和感を無視することができないでいた。知らぬ間に聞き耳を立ててしまう。

「あら？や〜ん、私も失敗」

「ハハハ、そんなんじゃダメだよ」

二ドリーノにあっさりとボールを弾かれ、見事ゲットに失敗してしまった少女を慰めてるのか、見下してるのか。思わず疑いたくなるような言葉が聞こえてきて、ノアはさっきまで自分が感じていた違和感が簡単に吹き飛ぶのが分かった。思わず寝そべっていた上半

身を勢いよく起こす。頭の中を閃光が走ったかのような感覚だった。

”ポケスぺの冒頭部分と全く一緒の展開…しかも台詞まで同じ?”

1 VS ミユウ（後書き）

初めまして、夏宮らんと申します。

この度はこの作品を読んで頂いて、本当にありがとうございます。

「バトルに興味がない」

こんな設定にしてしまい、大変申し訳ありませんでした。

「ポケモンなんだからバトルシーンがないとつまらない」

そう思われる方も数多いと重々承知しております。

ただ、作者はこちらの小説が初めて書く作品ですので

素敵なバトルシーンを書き上げる自信がございませんでした。

中途半端なものをお届けするよりかは

最初からバトルをしない設定の方が良いと

作者が勝手に判断させて頂きました。

何卒、ご理解の方をお願い致します。

丁寧に執筆させて頂きたいと思えます。

温かな作品をお届けられるように願いを込めて…

夏宮らん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0805z/>

バトルなんて興味ないから

2011年12月3日00時55分発行